

Weekly Report



名古屋アイリスロータリークラブ

例会日 水曜日 13:00～14:00

会長 藤谷 猛

例会場 ANA クラウンプラザ
グランコートホテル名古屋

幹事 深見 礼子

承認 2013年6月18日

公共イメージ
向上 岩崎 幸弘



ロータリー：
変化をもたらす

2017～2018年度名古屋アイリスRCのテーマ

共に活動し、共に奉仕し、
共に頑張るアイリス

●お問い合わせ：office@nagoya-iris-rc.jp

●公式WEBサイト：http://www.nagoya-iris-rc.jp

第210回 例会

2017年12月06日 13:00

- 司 会：須賀祐介例会運営・司会委員
- 斉 唱：君が代 奉仕の理想
- 出席報告：出席者数 32名 / 会員数 42名
出席率 76.19%
前々回(208回)修正出席率 73.80%
- ビジター：特別代表 浦野三男様
名誉会員 水野吉紹様

ニコボックス

- 師走に入り慌ただしくなりました。皆様御自愛下さい。(水野吉紹名誉会員)
- 本日はクラブ年次総会です。みなさんよろしくお願ひ致します。(藤谷猛会長)
- 昨日12月5日、アイリスゴルフ同好会にてソントクをいただき、優勝させていただきました。たくさんの賞金、馬の配当金等クリスマスプレゼントを早めにいただきました。尚私のカバンの中にはまだ入るヨチがありますので御協力お願いします。(安井戦略委員長)
- 昨日のゴルフはメタメタだったのですが楽しいラウンドでした。久々のニコボックスですし、来週また休むのでお詫びを込めて入れます。(荒山久美さん)
- クリスマス家族忘年会に多くの方が参加申込して下さいましてありがとうございます。当日楽しんで頂きますよう準備してまいります。(深見和久さん)
- 先日はゴルフ同好会、ありがとうございました。今回は安井さんの優勝となりました。皆様お疲れ様でした。(加藤正広さん)
- 先日はゴルフ同好会お疲れ様でした。安井さん、いろいろご指導ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。(岩田広樹さん)
- 先週、広島に35年ぶりに行きました。地元の人に原爆ドーム周辺を案内してもらいました。今週日曜日が誕生日ですが、子供らがテスト期間なので相手にしてもらえません。(安井嗣博さん)
- 嫌な誕生日がやって参りました。うれしくないけどニコボックス入れます。(片桐栄子さん)

会長挨拶

みなさん、こんにちは。

さて皆さんは、幾つまで仕事を続けられるおつもりでしょうか？いろいろなお考えがあると思います。たとえば60歳で引退して残りの人生を自分の為に使う人。あるいは生涯現役を目標として頑張る人、本当に様々ですね。これに正解なんてものはありません。きっと、その人が納得できるまで仕事を続けることが正

解なのかもしれません。言い換えれば、自分の求める趣味や生活の為に働くのか、あるいは、その仕事そのものが人生であり、生きがいとして働くのかで違ってくるのかもしれませんが。皆さんは、どちらのタイプでしょうか？



私自身は、恐らく生涯現役タイプではないかと思ひます。子供のころから電子技術やコンピュータが好きで、それを仕事にできた事を本当に幸せと感じています。この仕事についてから一日が長いなどと思ったことは一度もありません。それこそが私の幸せでもあります。日々の技術進化が激しいこの分野に携わることは、生涯自分を高めて行く終わりのない挑戦の様に感じています。

ところで、みなさんは入江一子さんという方をご存知でしょうか？入江さんは、現代日本の洋画家を代表する一人です。年齢は、現在101歳になられる現役の画家です。もちろん日本の洋画家界最長老です。しかし、休むことなく、今も筆を執り、作品をつぎつぎと生み出しておられますが、驚く事に101歳で、その作品はさらなる進化を続けているのです。

ところで、みなさんは入江一子さんという方をご存知でしょうか？入江さんは、現代日本の洋画家を代表する一人です。年齢は、現在101歳になられる現役の画家です。もちろん日本の洋画家界最長老です。しかし、休むことなく、今も筆を執り、作品をつぎつぎと生み出しておられますが、驚く事に101歳で、その作品はさらなる進化を続けているのです。

入江一子さんは1916年。当時日本の統治下にあっ

た朝鮮半島の大邸で裕福な貿易商の家に生まれました。小さいときから絵が好きで、一日一枚絵を描くことを6歳で経験しました。入江さんは、こう話されています。「一日一枚絵を書きました。絵が私の生活の第一義です。そういう計画をいたしまして、たとえ食べ物があっても、りんごがあってもそれを描かなきゃ食べない。お魚の新しいのが出てきても鯛なら鯛を描いてから食べる。そういうふうな習慣をしていました」

1934年、18歳の入江さんは親戚の反対を押し切り、たった一人で生まれて初めて海を渡り、東京の女子美術専門学校に入学。当時、女性が本格的に絵を学ぶ場所はどこかありませんでした。卒業制作「沼地風景」は、朝鮮半島の大地と沼が抽象画風の力強いフォルムと色彩で描かれています。第八回独立展に初入選して話題となり、入江さんは画家としての第一歩を踏み出しました。

現在の入江さんの一日は、アトリエと寝室の往復。一時間絵筆を握り、疲れるとベッドに横になる。そして目覚めるとまた描くというのが日課です。入江さんの画家人生はいつも旅とともにありました。中学で美術教師をしながら画業を続けた入江さんですが、シルクロードの旅を始めたのは50歳を過ぎてのことでした。なんとこれまでに30か国以上のシルクロードの国々を訪れ、大陸的な風景や辺境に生きる人々を描き続けました。

1992年、76歳の入江さんは驚くべき決断をしました。かねてから話に聞いていた幻の花。青いケシの花を一目見るため、中国四川省の標高4300メートルのスークナンシャンへの登山を決行したのです。土砂崩れでバスでの異動ができなくなり、耕運機に乗ったり、どろんこの道を歩きながら山あいの集落にたどり着きました。さらに奥地の村からは、ヤクに荷物を載せ歩く他ありません。(ヤクというのは牛のような動物です。)登山経験もなく、76歳の入江さんは馬に乗って現地を目指しました。入江さんは、こう言います。「突然霧が流れてきて、見通しが悪くなってきました。Uターンして帰ろうとすると、突然青いケシの花が咲いているのが見え始めました。息苦しい四千メートルの高地に青いケシの花を見ることができたのです。感動を心に留めながら、私はベースキャンプに向かって降りて行きました」

入江さんの描き方はシルクロードで観たものをスケッチし、日本に帰ってから再構築する方法です。現地ではテープレコーダーを持って行き、話を聞き、写真もたくさん撮り、現地の衣類や帽子、装飾品などの買い物もしたそうです。これらがすべて入江さんの絵の材料になるわけです。

今年、3月にデッサンを始めたキャンバスに彩色が始まりました。25年前、入江さんの心に深く刻まれた青の色が塗り重ねられて行きます。次第に姿を現す

幻の青いケシ。中国の旅の光景が蘇ります。入江さんは話します。「だんだん昔のことを思い出して、このケシをぜひ描いてみたいと思うようになったものですから、描いてみたいと思っております。24時間馬に乗ってそしてテント生活が2泊。もうフラフラでした。高山病で。この絵を描きました」、「人生の最後にもう一回このケシを、100歳の記念に描いてみたいと思っております。当時の様子を今でもそのまま思い出します。十分に描きますので本当にうれしいです。若返った気持ちで書いています」

「人の魂をいつまでも引っ張っていくような絵を描きたい。ただ写して上手下手ではなくて。今、絵はだんだんに絵がわかってきて面白くて、絵がよくわかるんです。情けないのは体力が一番心配なんです。」
「絵はだんだんかけるようになって・・・絵がだんだんわかってくるのです。だから命がけで描いています」

四千メートルの山道。灼熱の砂漠を踏破してきた入江さん。今、同じ地球の上で東京の地面を踏みしめています。花の命に挑む101歳の画家です。

私も命が尽きるまで自分の仕事を追求できるような生き方が出来ればと思いつつ会長挨拶を終わります。ありがとうございました。

■幹事報告

深見幹事より4点報告がありました。

- ① 12/9 米山記念奨学会忘年会
- ② 12/10名城ローターアクト会合
- ③ 例会卓話者(12/13)の方の紹介
- ④ クリスマス家族例会について

■クラブ年次総会(2017-2018年度)



深見幹事の司会でクラブ年次総会が開催されました。この総会が定款にそって定数をみたしている事の報告があり、幹事より藤谷会長の議長の指名がありました。

藤谷会長より次年度の理事・役員の理事会案の提案があり、全会一致の承認がなされました。

クラブ年次総会



次期会長予定の竹内祐子さんからのご挨拶。



次期幹事の片桐栄子さんより「みなさんのご協力を
ぜひ お願いします！」



■卓話

荒山久美ロータリー財団委員長より社会奉仕活動の資金の流れについての詳細な説明がありました。



DDF地区活動資金について理解をしてください。

■誕生日祝福

12/10 安井嗣博さん
12/12 菊池富士子さん
12/21 片桐栄子さん
12/22 生田瀬津子さん
おめでとうございます